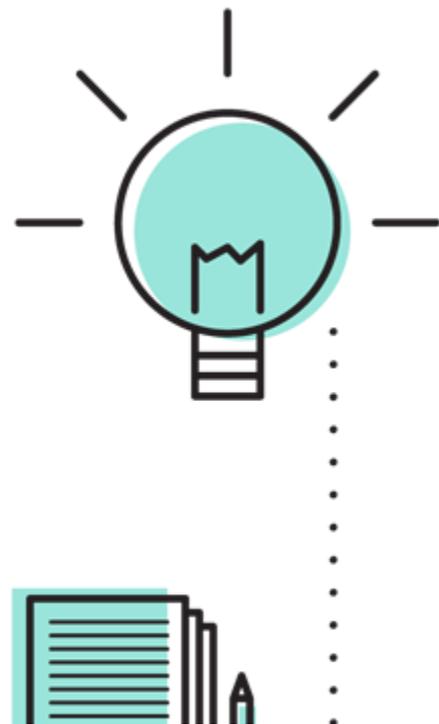
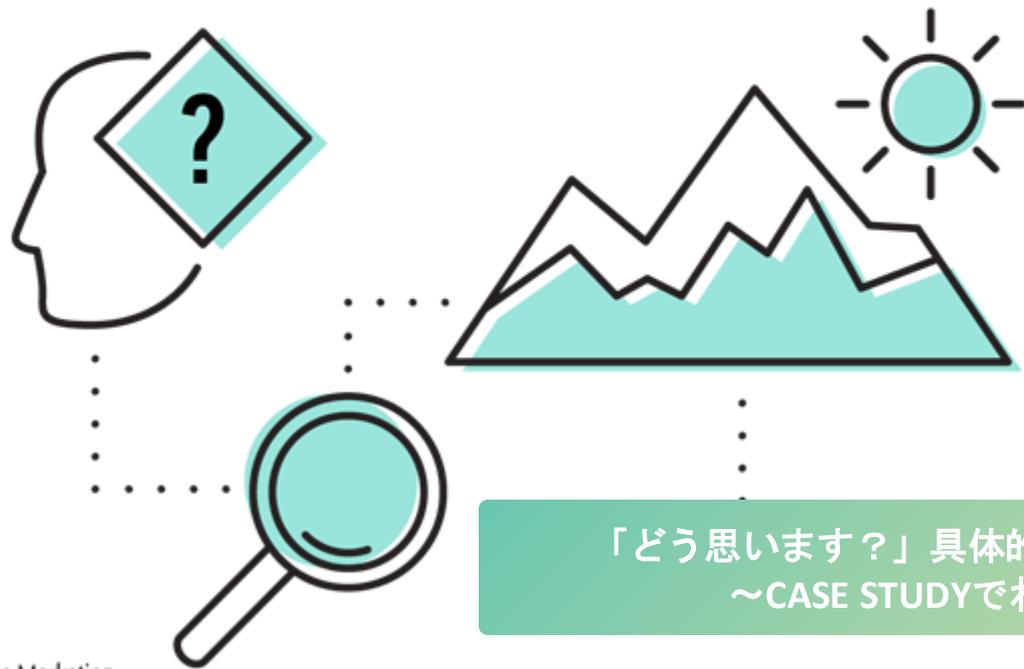


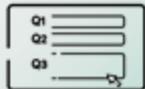
地方自治体の地域課題解決
住民意識調査
にQiQUMOを活用！



「どう思います？」具体的な課題解決のための QiQUMO の使い方
～CASE STUDYでわかる、Webアンケートの効果～

QiQUMOとは？

QiQUMO（キクモ）は、アンケート画面の作成や、結果の回収をご自身で操作するインターネット調査ツールです。通常の調査に比べて、費用を抑える事ができ、スピーディに対応が可能のため、手軽に調査業務の効果を実感できます。



直感的な操作で簡単にアンケートが作成できる

アンケート作成から分析までワンストップ。回答データもエクセル形式で出力可能！



目的に応じて様々な人々の声を聞くことができる

リサーチ対象パネル約1,000万人！自社会員や社員など保有リストへの配信も可能！



低価格の料金体系で安心して利用できる

どんなに使っても設問数x回収数x11円=料金（税込）※前金なし、アンケートを回収した分だけの課金です。



7つの属性情報を組み合わせて配信指定ができる

約1,000万人のパネルに対して属性情報で絞り込んで配信ができる！



海外のパネルにも配信できる

最大24か国のパネルに配信可能！海外調査をスピーディに実施！

低コストで直感的な操作が可能。スピーディに即日アンケートを実現！

本資料の構成

この資料では、QiQUMOを使ったアンケートリサーチの流れを紹介します。ツールの使い方ではなく、具体的な調査事例（アンケートを実施）を用いて、課題に対する設問設計や仮説検証の方法を知っていただける内容です。セルフ型アンケートツールを用いた調査が、貴社のビジネスでどのように活用できるかをイメージいただければ幸いです。



CASE STUDY : 高齢者の社会参加の実態は？

地方自治体が実施する住民意識調査

取り組んだ課題

人口減少・少子高齢化が進む中、地域コミュニティの持続可能性を見直すため、社会参加の実態を調査。

A市（自市）：高齢化が進み、地域の担い手や交流が減少している地方都市

- ・大都市圏への人口流出が続き、地域産業は人手不足に直面。
- ・空き家や空き店舗の増加も深刻化し、活気の低下が懸念されている。
- ・高齢者の孤立が進み、健康や生活の質への影響が見られ始めている。



B市・C市：高齢者の社会参加を促進し、地域のつながりを再構築している自治体

- ・多世代交流の場づくりや、参加型プログラムを展開。
- ・高齢者が地域活動に関わる機会を増やすことで、孤立を防止し地域に貢献。
- ・地域福祉の担い手として、住民自身が役割を持つ仕組みが定着。

A市地域福祉課では、他自治体の取り組みを参考にしながら、高齢者の社会参加促進や地域コミュニティ再生の戦略を検討中。まずは現状把握のため、実態調査から取り組みをスタートしました。

参考_行政機関が実施するアンケート調査

行政機関は住民の声を政策に反映させるために、さまざまな目的を持ってアンケート調査を実施しています。
行政機関が実施するアンケート調査には次のような種類があります。

1. 基本統計作成

目的: 社会基盤データの収集

- 例: 国勢調査（人口・世帯構成）、経済センサス（産業構造）
- 特徴: 政策の根拠となる基礎データを体系的に収集し、国や地域の将来計画（インフラ整備・予算配分）に活用。

2. 行政サービスの評価

目的: 公共サービスの質向上

- 例: 公共交通満足度調査、ゴミ収集サービスの評価、公立学校の教育環境アンケート
- 特徴: 住民の不満点や要望を把握し、効率的な行政運営や予算の優先順位付けに反映。

3. 政策形成・課題抽出

目的: 新規政策の立案支援

- 例: 子育て支援策のニーズ調査、高齢者向け福祉サービスの需要分析
- 特徴: 特定テーマに特化し、住民の潜在的な課題や要望を掘り下げて政策に具体化。

4. 住民意識の把握

目的: 価値観や生活実態の把握

- 例: 防災意識調査、ワークライフバランス実態調査
- 特徴: 社会の変化（少子高齢化・デジタル化）に伴う意識変容を追跡し、長期的な戦略策定に活用。

5. 事業効果の検証

目的: 政策・事業の成果測定

- 例: 補助金制度の利用効果調査、イベント開催後の経済波及効果分析
- 特徴: 投資対効果（ROI）を評価し、継続・改善・中止の判断材料とする。

6. 緊急課題への対応

目的: 突発的事象への迅速対応

- 例: 災害被災地の復興ニーズ調査、感染症流行時の生活影響調査
- 特徴: 短期間で課題を可視化し、緊急支援策や復興計画の迅速な策定を支援。

7. 参加型計画の策定

目的: 住民参画による合意形成

- 例: まちづくりワークショップ関連アンケート、公共施設的设计案選択調査
- 特徴: 住民の直接的な意見を計画に反映させ、透明性や納得性を高める。

8. 広報・啓発活動の効果測定

目的: キャンペーン等の影響評価

- 例: 省エネ促進キャンペーンの認知度調査、選挙投票啓発の効果検証
- 特徴: 情報発信の到達度や行動変容を分析し、今後の広報戦略を改善。

調査企画 — 地方自治体の意識調査

今回の調査は「高齢者の社会参加」がテーマですが、「高齢者」や「社会活動・社会参加」の定義を明確にしておく必要があります。また、60歳以降も就労を継続する流れが拡大していく傾向にあることも調査設計で留意しなければならない点です。

調査目的

高齢者層の就労を含む社会活動への参加状況を把握するとともに、他者との交流（コミュニケーション）のあり方の実態から孤独・孤立化が生じる可能性を探る。

調査対象

社会との関わり方が変化する契機を定年と想定し、60歳以上の市民を住民基本台帳から無作為抽出。
サンプル数は500とした。

調査項目

1. 年齢
2. 就労状況
3. 他者とのコミュニケーションの状況（対面・非対面）
4. 社会活動への参加経験
5. 社会活動への参加の動機
6. 社会活動に参加しない理由
7. 自治体への要望（選択肢・自由回答）

備考

高齢者の定義：

65歳以上を高齢者、75歳以上を後期高齢者（高齢者の医療の確保に関する法律）とされているが、本調査の趣旨から60歳以降を調査対象に含める。

定年：

2025年4月より65歳以上の雇用確保が義務化されたが、60歳定年の選択肢も残されているため、本調査では60歳で定年した人も含める。

社会活動と社会参加活動について：

「社会活動」と「社会参加活動」については明確な定義はないが、一般的には就労を含む広義の社会的な関与を社会活動、ボランティアなど社会貢献を目的とする能動的な活動を社会参加活動とされることが多い。本調査では就労を含めた社会活動を広義の意味で用いる。

アンケートは統計的に処理し、個人情報特定されない形で活用します。

質問文と選択肢の作成

調査項目	質問文	選択肢
年齢	Q1.あなたの年齢をお答えください。	60～64歳/65～69歳/70～74歳/75歳以上
就労状況	Q2.現在、あなたは収入の伴う仕事を日常的に行っていますか。次のうち当てはまるものを1つお選びください。	フルタイムの被雇用者/パートタイム・アルバイト・臨時の被雇用者/会社または団体の役員/自営農林漁業（家族従業者も含む）/自営商工サービス業（家族従業者も含む）/上記の複数を兼業/収入の伴う仕事はしていない/その他
対面でのコミュニケーションの状況	Q3.対面での家族・知人・友人、近隣住民との交流についておたずねします。あなたが、日常的かつ継続的に対面でのコミュニケーションを取っている相手として当てはまるものをいくつでもお選びください。	同居の家族/別居の家族/現在属している職場の友人・同僚/過去に属していた職場の友人・同僚/居住地域の近隣の人/居住地域における活動の仲間（町内会、自治会活動など）/職場以外の趣味・社会活動における友人・知人/ゲームやSNS、オンライン上での知り合った友人・知人/日常的かつ継続的にコミュニケーションを取っている相手はいない/その他
非対面でのコミュニケーションの状況	Q4.非対面での家族・知人・友人、近隣住民との交流についておたずねします。あなたがSNS・メール・電話などを通じて、日常的かつ継続的にコミュニケーションを取っている相手として当てはまるものをいくつでもお選びください。	
社会活動への参加経験	Q5.過去1年間に、次のような地域の社会活動に参加したことはありますか。参加したことのあるものをすべてお選び下さい。	健康・スポーツ・レクリエーション（ラジオ体操、歩こう会、ゲートボールなど）/趣味（俳句、陶芸、詩吟など）/地域行事（お祭り、イベントなど地域の催し物など）/環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくりなど）/生産・就業（園芸、耕作、シルバー人材センターなど）/安全管理（交通安全、防犯、防災など）/教育・文化関連（学習会、子ども会、郷土芸能の伝承など）/高齢者・障害者支援（家事援助、移送など）/子育て支援（保育の手伝いなど）/町内自治会活動/その他/社会活動には参加していない
社会活動へ参加する動機	Q6.社会活動に参加して良かったと思うことや参加する動機として当てはまるものをすべてお選びください。	生活に充実感をもたらす/新しい人間関係ができる/健康や体力向上につながる/地域社会に貢献できる/地域の助け合いにつながる/自分の経験や技術を生かせる/知識や見聞が広がる/付き合いで仕方なく参加している/特にない/その他
社会活動に参加しない理由	Q7.地域の社会活動に参加しない理由として当てはまるものをすべてお選びください。	参加する時間がない/活動に興味関心がない/参加したい内容の活動がない、または知らない/負担が大きい/一度参加したら辞めることができなくなりそう/参加方法がわからない/体力的に難しい/経済的に難しい/その他
自治体への要望	Q8.自治体や地域団体への具体的な要望や期待することはありますか。当てはまるものをすべてお選びください。	地域課題の解決や取り組み/まちづくり活動のリーダーシップ/イベント等による賑わいづくり/地域の連帯感や一体感の醸成/広報紙やSNSなどでの情報発信/住民の意見を発信できる場や機会をつくる/特にない/その他
自治体への要望（具体的に）	Q9.地域のイベント/行事/風習などについて、新しく実施してほしいもの、現在実施されているもので見直すべきもの、復活してほしいものなど、自由にご意見をお書きください。	（自由入力）

リスト配信の設定

本調査はA市に住民票登録がある市民が調査対象であることから、住民基本台帳から60歳以上の市民がいる世帯を抽出し、アンケート調査の協力依頼はがきを郵送。はがきに印刷されたQRコードからスマートフォンでアンケート調査画面にアクセスしてもらうという方法をとりました。QiQUMOではリスト配信を選択し、以下のような設定を行います。



一般的にインターネット調査や郵送調査を含めたアンケート調査の回収率は20～30%程度です。地方自治体が実施する住民アンケートでは、アンケートのテーマに対する住民の関心の高さによってはこれより高い回収率となるケースも多いようです。本調査では、回収目標を500サンプル、回収率25%を想定し、60歳以上の住民がいる2000世帯にアンケート依頼はがきを送付しました。アンケート依頼画面に印刷するQRコードは、上図左のQRコードのマークをクリックすると上手右の拡大画面が表示されます。ここから画像をダウンロードしてアンケート依頼はがきに印刷します。上図左、回答数上限を回収目標である500に設定すると、回答数が500サンプルに達した時点でアンケートが締め切られます。

個人情報もしくはそれに値する情報を取得する設問について、お客様ご自身の保有リストへの配信（メール、SNS、自社メディア等から回答を集める）の場合には、お客様の責任のもとで聴取可能です。QiQUMO提携パネルに配信する場合には個人情報取得は行えませんのでご了承ください。

調査結果_年齢別就労状況

Q2.は就労状況についての質問項目です。Q1.の年齢とクロス集計を行い年齢別の就労状況を見ると、年齢が高くなるにつれて収入を伴う仕事に就いている割合は減少していきます。65歳以上の各年齢区分の就業率は総務省の「労働力調査」とほぼ同様な水準となっています。

Q2 現在、あなたは収入の伴う仕事を日常的に行っていますか。次のうち当てはまるものを1つお選びください。

- フルタイムの被雇用者
- パートタイム・アルバイト・臨時の被雇用者
- 会社または団体の役員
- 自営農林漁業（家族従業員も含む）
- 自営商工サービス業（家族従業員も含む）
- 上記の複数を兼業
- 収入の伴う仕事はしていない
- その他(具体的に記入してください)

		(n)						(%)
全体	500	18.8	17.6	2.4	4.4	52.8	3.6	
Q1	60～64歳	166	35.5	18.1	4.8	8.4	30.1	3.0
	65～69歳	108	22.2	19.4	1.9	2.8	50.0	2.8
	70～74歳	148	7.4	22.3	1.4	1.4	61.5	5.4
	75歳以上	78	5.1	3.8			88.5	2.6

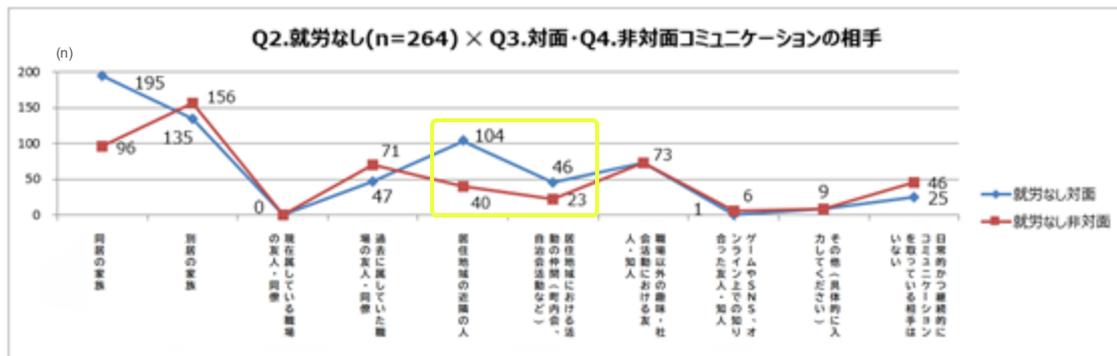
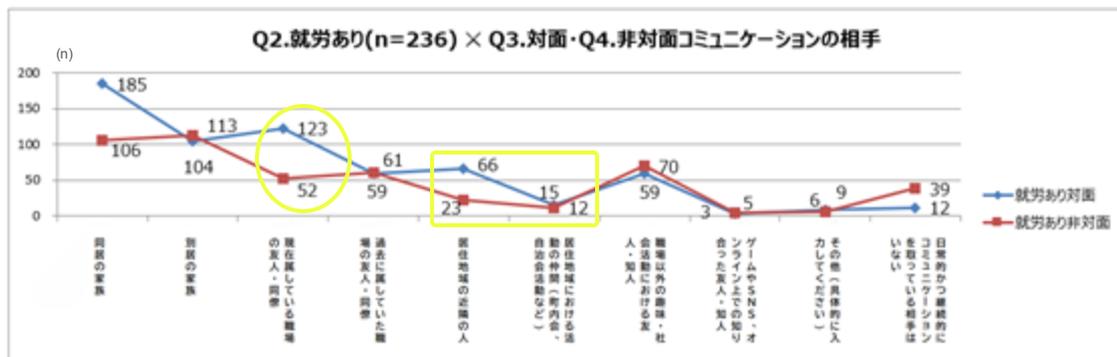
60歳以上のすべての年齢を総合すると、約半数が収入を伴う仕事しています。

年齢別では65歳未満で7割、65歳から70歳未満で約半数、70歳から75歳未満で3割強が仕事をしているという結果です。

健康寿命の延伸と高齢者の就業率が上昇傾向にある近年の傾向を裏付ける結果となっています。

調査結果_就労の有無別コミュニケーション状況

Q2.の回答結果から、仕事をしている人(就労あり：n=236)としていない人(就労なし：n=264)分けて、Q3.の対面のコミュニケーション相手とQ4.の非対面のコミュニケーション相手を比較してみます。Q3.、Q4.は複数回答の質問であることから、グラフの値は回答数で集計しています。



Q2.の「収入を伴う仕事はしていない」以外の選択肢をまとめて、「就労あり」と「就労なし」に集計を加工した上で、Q3.対面コミュニケーションの相手とQ4.非対面コミュニケーションの相手をそれぞれクロス集計しています。

全体の傾向を見ると、家族に次いで就労の有無が社会的なコミュニケーションの相手に占めるウェイトが大きいです。

就労ありの場合は、非対面でも職場関係のコミュニケーションがある程度維持されていることが明確になっています。

また、就労なしは「近隣の人」「町内会、自治会などの仲間」とのコミュニケーションが、対面・非対面ともに就労ありに比べて多いことが見て取れます。

調査結果_参加経験のある社会活動

Q5.は参加経験のある社会活動についての質問項目です。いずれかの社会活動に参加経験がある回答者は全体の44.8% (n=224) です。この結果を年齢別の割合で見たものが下のグラフです。

Q5 過去1年間に、次のような地域の社会活動に参加したことはありますか。参加したことのあるものをすべてお選び下さい。



(n) 60~64歳 65~69歳 70~74歳 75歳以上

社会活動	参加者数	60~64歳 (%)	65~69歳 (%)	70~74歳 (%)	75歳以上 (%)
健康・スポーツ・レクリエーション (ラジオ体操、歩こう会、ゲートボールなど)	69	21.7	23.2	24.6	30.4
趣味 (俳句、陶芸、詩吟など)	39	17.9	23.1	38.5	20.5
地域行事 (お祭り、イベントなど地域の催し物など)	111	24.3	17.1	37.8	20.7
環境改善 (環境美化、緑化推進、まちづくりなど)	50	14.0	16.0	46.0	24.0
生産・就業 (園芸、耕作、シルバー人材センターなど)	16	0.0	12.5	68.8	18.8
安全管理 (交通安全、防犯、防災など)	28	28.6	14.3	46.4	10.7
教育・文化関連 (学習会、子ども会、郷土芸能の伝承など)	23	13.0	13.0	47.8	26.1
高齢者・障害者支援 (家事援助、移送など)	9	22.2	11.1	33.3	33.3
子育て支援 (保育の手伝いなど)	4	25.0	0.0	50.0	25.0
町内自治会活動	110	26.4	19.1	34.5	20.0
その他(具体的に記入してください)	7	14.3	14.3	42.9	28.6
社会活動には参加していない	276	41.3	22.8	25.0	10.9

参加経験のある社会活動は「地域行事」(111人)、「町内会自治会活動」(110人)が多くなっています。

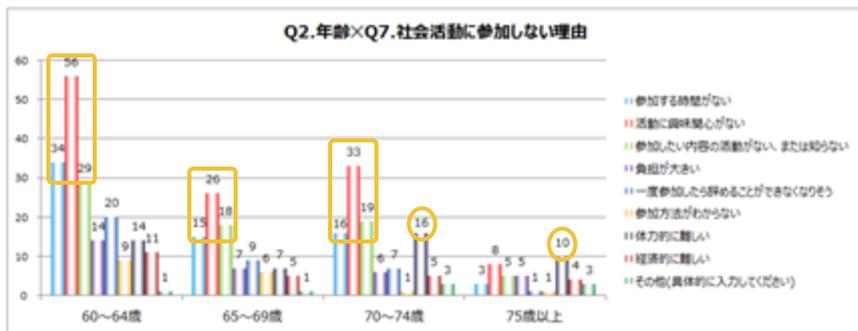
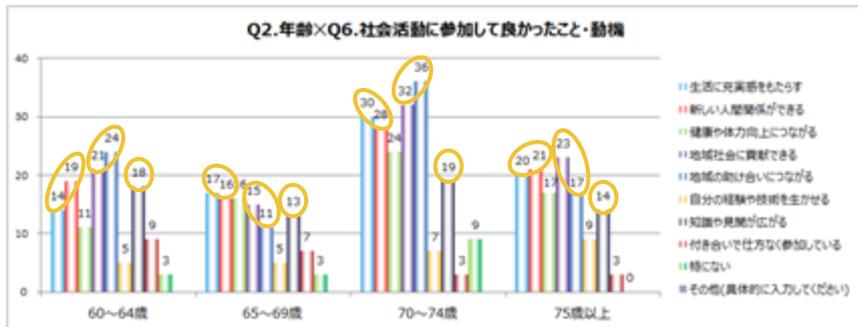
年代別で見ると8つの活動の種類で70歳~75歳未満が最も多くの割合を占めています。

「健康・スポーツ・レクリエーション」は年齢が高くなるほど増加していることが傾向として見て取れます。

また、「社会活動への参加経験がない」回答者は65歳未満が4割を超え最も多くなっています。

調査結果_社会活動に参加する・しない理由

Q5.の社会活動への参加経験のある・なしの回答者それぞれに、Q6.では参加して良かったこと・参加する動機、Q7.では参加しない理由を聞いています。年齢別にクロス集計をした結果を見てみます。



参加してよかったこと・動機は「地域社会への貢献」「地域の助け合い」「生活の充実感」「新しい人間関係」「知識・見聞の広がり」がいずれの年代でも高くなっています。また「健康・体力向上」が70歳以上で多く挙げられています。

参加しない理由は、「関心がない」が最も多く、「活動の内容を知らない」「時間がない」を加えて75歳未満で多いことが共通しています。75歳以上では「体力面の不安」も理由のひとつとなっています。

自由回答で挙げられた「参加しない理由」では、親・障害者の「介護」が挙げられています。

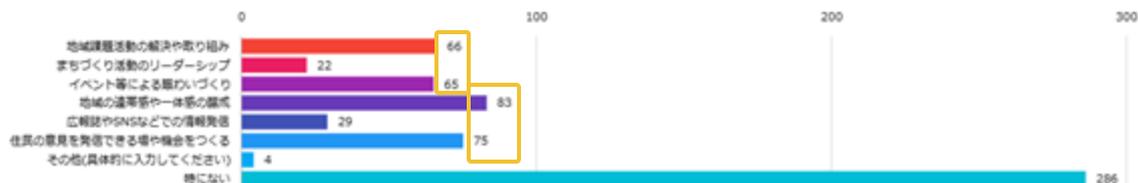
社会活動に参加しない理由（自由回答）

- コロナ以降行事がなくなった
- 身体的に障害を持っているから
- 親の介護
- 特になし
- 家族を介護しているため
- 一歩を踏み出せない
- 身体障害あり支障ある
- 知らない人の仲間に入りたくない

調査結果_自治体・地域団体への要望・期待

Q8.は要望を複数回答で聞いた質問項目です。「特にない」が57.2% (n=286) と6割弱を占めていますが、残り214人から得られた回答数を合計すると344となり、1人あたり平均1.6個の要望項目が選択されたこととなります。

Q8 自治体や地域団体への具体的な要望や期待することはありますか。当てはまるものをすべてお選びください。



Q9.地域のイベント・行事・風習などについて、新しく実施してほしいもの、現在実施されているもので見直すべきもの、復活してほしいものなど、自由にご意見をお書きください。

自治体・地域団体への要望 (自由回答)

- 耕作放棄地を提供するので有効利用してほしい
- 単発で終わらない継続的な地域交流の機会を作ってほしい
- 世代を超えて参加できるイベントの企画
- 地域ごとに独自にアンケートを取りたい
- 町内会活動の活性化
- 昔あった町内会の掲示板は役に立つことがあった
- 地域の世話人的な活動をしたい高齢者は結構いる
- シルバー人材センターの活動をもっとよく知りたい

「地域の連帯感の醸成」(n=83)「住民の意見を発信する機会をつくる」(n=75)が多く選ばれていることから、地域コミュニティの強化を望んでいる層が一定数存在することが示唆されます。

それらに次いで「地域課題の解決」(n=66)「賑わいづくり」(n=65)が多いことは、実践的な取り組みが期待されていると解釈できます。

自由回答では、地域コミュニティに望む具体的な声が挙げられています。

調査結果の分析と解釈～結論

分析と解釈

- 高齢者の就業率は各年齢区分ともに総務省の「労働力調査」とほぼ一致する結果となった。
- 就労の有無によるコミュニケーションの相手は大きな違いが見られなかったが、就労が社会活動のなかでのウエイトが大きく、地域住民間でのコミュニケーションは対面・非対面ともに就労していない人のほうが多くなる。
- 「社会活動への参加経験がない」が55.2%と過半数を占めたが、参加経験のある社会活動は「地域行事」「町内会自治会活動」が多く、年代別では70歳～75歳未満の存在感が大きい。
- 社会活動への参加理由は「地域貢献・助け合い」を挙げる回答が多く、参加しない理由は「関心がない」「活動内容を知らない」「時間がない」が75歳未満に共通して多かった。
- 自治体・地域団体への要望では、地域コミュニティの強化と実践的な取り組みを望む声が挙げられた。

結論

就労の有無とコミュニケーションの環境が社会参加に対する認識を大きく左右することを想定していたが、65歳未満は7割が就労し職場関係の交流を維持する一方で、地域との交流がある人は就労ありよりも就労なしのほうが多い。参加経験のある社会活動を見ると70歳～75歳の年齢区分の割合が高いものが多いことから、この年齢層を中心に地域交流の働きかけを行っていくことが効果的と考えられる。

また、社会活動に参加しない理由として挙げられた「関心がない」「活動内容を知らない」という住民に対して参加意欲が刺激する地域交流のための企画を提案するとともに、それを周知させるための広報活動が重要になる。

ブランドイメージ調査にQiQUMOを活用するメリット

【カンタン】 - 高齢者向けでも直感的に使える設計で、回答率アップ

QiQUMOはQRコードからスマートフォンで簡単にアクセス可能。複雑なログインや入力が不要で、高齢者の方でもスムーズに回答できます。設問のレイアウトもシンプルで、アンケートに慣れていない層にも配慮された設計です。今回の調査では「就労状況」「社会参加経験」「活動への関心」など複数カテゴリを一度に調査。マトリクスやスケール形式を活用し、高齢者の実態把握に役立つデータを効率的に取得できました。

【リーズナブル】 - 回収・集計・分析コストを一括で削減

高齢者向けアンケートは従来、郵送や電話などコストの高い手法が中心でしたが、QiQUMOなら印刷・郵送・入力作業が不要で、調査コストを大幅に削減できます。配布方法も柔軟で、効率的な運用が可能です。今回の調査では、オープンアンケート機能を使って約500名を対象にQRコードとWebフォームを組み合わせることで実施。紙調査と比べコストを抑え、限られた予算でも継続できる調査モデルとなりました。

オープンアンケート実施

[無料キャンペーン実施中](#) [詳細はこちら](#)

【スピーディ】 - 紙調査と比較して圧倒的な回収・分析スピードを実現

従来の郵送調査は回収や入力、集計に時間がかかりましたが、QiQUMOなら配信から回収、グラフでの自動集計までオンラインで完結。数日で状況を把握でき、早期に分析を開始できます。今回の調査は、高齢者の社会参加に関する施策を議論する時期が迫っており、短期間での実施が必須でした。QiQUMOを使うことで十分な回答数を短期間で集め、結果を即資料化し政策検討に活用できました。

【活用事例の有用性】 - 地域課題を住民自身の問題として意識づける

行政の調査は、データ収集だけでなく、住民に気づきを促す広報ツールとしての役割もあります。QiQUMOで得た結果を公表・共有することで、地域の課題を住民が“自分ごと”として捉え、参加意識を高める効果が期待されます。今回の調査では、70～75歳未満に社会参加経験が多いことが判明。この層を起点とした施策や、参加に消極的な層へのアプローチ、情報不足への広報強化策の検討が可能となりました。

QiQUUMOの利用方法

簡単4STEPでアンケートが可能！

無料でアカウント登録をして、すぐにアンケートを作成いただけます。当日15時までの依頼で即日配信、最短でその日に回収が完了することも。回答データはExcel形式で出力することができるので、すぐに結果をお手元で確認できます。

STEP
01

登録

QiQUUMO アカウント登録

法人/個人
 法人 個人

会社名
会社名

メールアドレス
Email

担当(姓) 担当(名)
姓 名

担当(セイ) 担当(メイ)
セイ メイ

- ・メールアドレスと名前を入力して、無料でアカウント登録
- ・アカウント作成後、即時アンケート作成可能

STEP
02

作る

質問タイプの選択

単一選択

表示条件を設定する

質問オプション
 回答必須 フルダウンロード

質問文
あなたはクロス・マーケティングをご存じですか？

選択欄 (改行で複数行追加)
はい
いいえ

- ・ドラッグ&ドロップで設問形式を選択
- ・質問と選択肢をテキスト入力するだけで簡単に作成

STEP
03

集める

配信条件

性別
 すべて 男 女

年齢(3段階別)
 すべて 10歳以上 20代 30代 40代 50代 60代 70代

配信地域
 全国 北海道・東北 北海道 青森県 岩手県 秋田県 山形県 宮城県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長門県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

- ・クロス・マーケティングの1,000万人のアクティブモニターへアンケート配信が可能
- ・配信当日～翌日には回収が完了

STEP
04

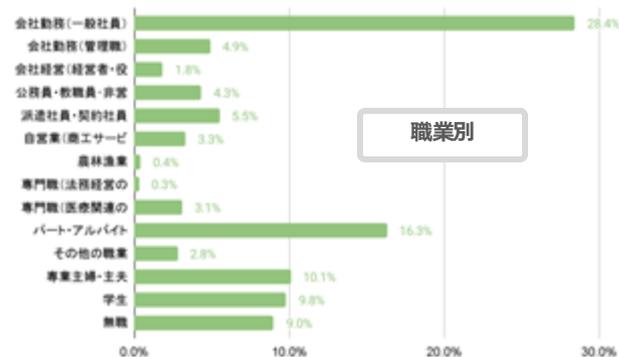
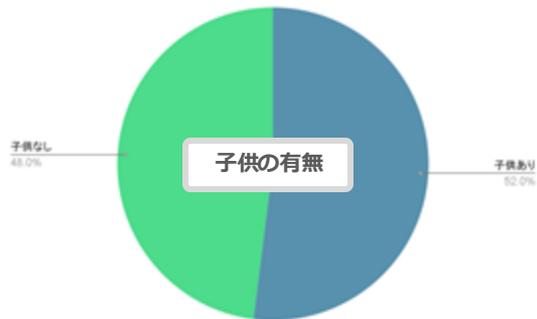
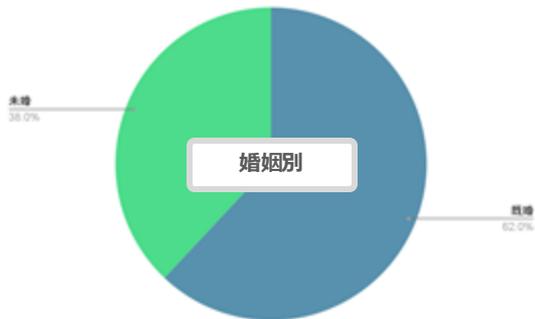
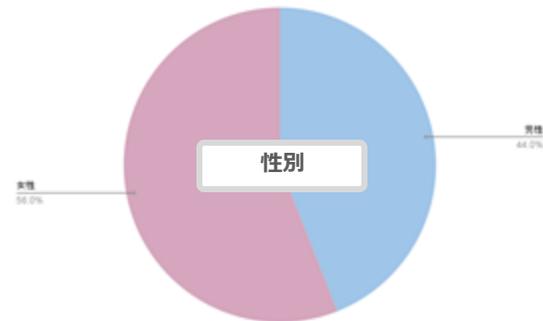
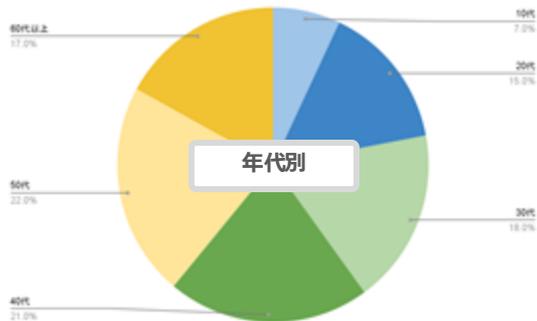
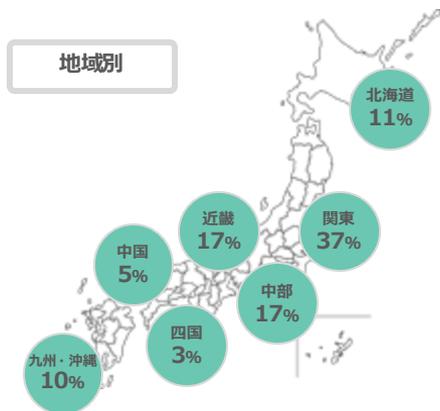
探る



- ・リアルタイムでダッシュボードから回答内容を確認
- ・無料集計ツールで意図した分析も可能

QiQUMOの優れた回収力

リサーチ対象アクティブパネルは、国大最大規模の「1,000万人」。年間約10,000件以上のリサーチ実績のあるクロス・マーケティングが、普段使用しているパネルへのアンケートが可能です。



単純で明快なQiQUMOの料金体系

本調査

設問数 × 回答人数 × 11円 (税込) 最低利用料金：2,200円以上				
設問数	100人	500人	1,000人	3,000人
3問	3,300円	16,500円	33,000円	99,000円
10問	11,000円	55,000円	110,000円	330,000円
20問	22,000円	110,000円	220,000円	660,000円

画像・動画の差し込みなど、他社では追加費用、月額会員登録が必要な機能も追加費用は一切発生しません。
以下の機能が追加料金なしでご利用いただけます。
※お支払方法は、クレジットカード決済もしくは請求書払いからお選びください。

事前抽出調査

サンプル数 × 5.5円 (税込)
例) 1,000人×5.5円=5,500円
※事前抽出調査は、1,000サンプル以上から



 画像・動画提示

 回答条件制御

 繰り返し設問

 豊富な配信属性

 回収数の割付

 集計ツール

 ダッシュボード

 性年代・居住地情報付与

 事前抽出調査機能

オープンアンケート無料キャンペーン

オープンアンケートとは？

回答ページのURLを自由に告知し、お客様向けアンケートや従業員向けアンケートなど幅広い用途にご利用いただけるサービスです。メールやSNSを通じてお客様の会員にアンケートを行ったり、Webサイト来訪者にアンケートを実施することができます。QiQUMOではシステムからメールでアンケートを配信したり、QRコードを発行することが可能です。

こんなシーンで活用いただけます



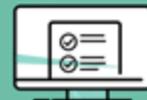
従業員満足度調査



顧客満足度調査



会員向け
アンケート



Webページ来訪者
向けアンケート



イベント店舗等の
来客者向け
アンケート

[ご利用方法・詳しくはこちらから](#)



<https://qiqumo.jp/>

無料アカウント登録

お問い合わせ：QIQUMO事務局 info@qiqumo.jp